

「泌尿器科関連ロボット支援下手術について」

泌尿器科長 松本 明彦

ロボット支援下手術とは

ロボット支援下手術について、みなさまご存知でしょうか。当院では2019年から手術支援用ロボット（製品名：ダ・ヴィンチ Xi、図1）を導入し、男性の前立腺がんに対して前立腺を摘出する手術を開始しました。

昨年は45名の患者様がこの手術をお受けになり、累計の件数では100件を超えております（図2）。

入院期間は10日程度で、退院後比較的早期にもとの生活に戻れることから、実際に手術をお受けになった方の中には、お知り合いで同じロボット支援下手術を受けた方のお話を参考にしたりおっしゃる方も増えています。

ロボット支援下手術は、今までの腹腔鏡を使った手術に比べて、手術時間が短く、出血も少ないなど安全性が高く、術者は立体的な3D画面を見ながら、手ブレ防止機構のある鉗子やカメラを両手で操縦し、きめ細かな手術手技を実現しています（図3）。現在では前立腺がんの方以外にも、腎臓がんで比較的サイズの小さい方や、尿管の狭窄で腎盂が拡張した方などについても、ロボット支援下手術による治療を取り入れております（表）。



図1
当院で稼働中のダ・ヴィンチ Xi



図2
ダ・ヴィンチ手術当院
100症例達成の記念盾



図3
ダ・ヴィンチ Xi でシミュレーション中の術者

表：泌尿器科で行っているロボット支援下手術の一覧

導入年月	術式	対象疾患
2019年7月	ロボット支援前立腺全摘除術	前立腺がん
2020年1月	ロボット支援腎部分切除術	腎がん
2021年9月	ロボット支援腎盂形成術	腎盂尿管移行部狭窄症

当院泌尿器科の体制

ロボット支援下手術をご希望される患者様が年々増えていることに対応して、ロボット支援下手術を行う資格を持った泌尿器科医師は4名となり、そのうち1名は学会認定のロボット支援下手術の指導医（プロクター）資格を取得しました。現在は週2件の手術枠で、ご病状に合わせて、前立腺がんについては男性機能を保たせる目的で海綿体神経を温存する手技や、進行が予想される場合には骨盤内のリンパ節も同時にロボット支援下手術で摘出する術式などをプランニングすることで、患者様のニーズに即した最善の手術となるよう心がけております。

その他、すでに保険診療で認められている膀胱がんに対する膀胱を全摘出する手術についても、当院で導入を検討しており、今後新たに認められる術式についても積極的に導入できる体制を、ロボット支援下手術導入当初から東京大学泌尿器科学教室との技術提携により整えております。

最後に、当院泌尿器科は常勤医師6名、非常勤医師2名の体制で、そのうち日本泌尿器科学会認定の指導医は5名と志太榛原地区の中でも充実した施設の1つとなっております。手術については、ロボット支援下手術をはじめとして、腎尿管結石、膀胱腫瘍、前立腺肥大症に対する内視鏡手術、腎がんや腎盂尿管がんに対する腹腔鏡手術、腎不全における血液透析用の内シャント手術、腹膜透析用のカテーテル手術、腎移植手術など様々な疾患へ対応が可能で、昨年は当科の年間手術件数は1,000件を超えました。これからも地域に根ざして、より安全で患者様ご家族に安心を届けられる治療を目指して、新型コロナウイルス感染症対策を取りつつ日々努力してまいります。